台風襲来!!

台風十八号、山口県に上陸。

平成十一年九月二十五日未明、山口県西部と東部に「大雨・洪水・暴風・波浪・高潮警報」が発令された。午前七時すぎ、県下全域が暴風域となる。そして山口県は風、雨とともに満潮と重なるという最悪の状況で台風十八号を迎えた。

錦帯橋あやうし!

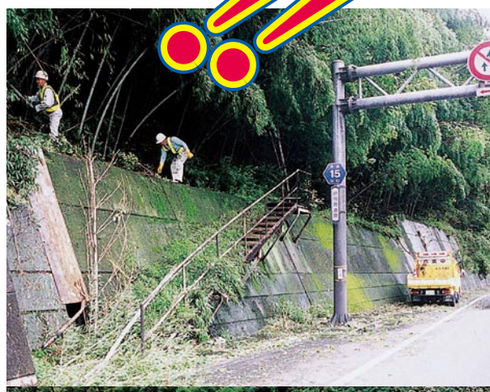
緊急出動・復旧作業に迅速な対応

岩国では道路管理のボランティアの一環として、警戒パトロールを台風の最中も続けました。「この台風は風も強かったが時間が短かったので、風被害はそんなに大きくなかったと思う。でも、水の被害は大きいですよ。」ゴーゴーと音をたてて大きな流木の流れる川を見ていると、その大変さが感じられました。「錦川の水量がこんなに増えたのは、ここ何年となかった。川沿いの民家、田畑、道路が水に浸かったのは久しぶりのことです。」とのこと。

あの錦帯橋があわや流されるのではと思えるほどの水量を見せられると、そのすごさを計り知ることができました。川もあちこちであふれている。土砂が道路に崩れ落ちている。街路樹がなぎ倒されている。この状態の中で、まさに命をかけての作業が行われていた

岩国支部

この台風のまっただ中に、勇猛に働く人達がいるのです。「二十四日の午後一時頃から見回りをずっと続けました。倒木の処理、道路パトロール、交通規制、道路閉鎖、交通誘導など、次第にやる作業が増えていきました。」この地区を担当している ミヤベの作業員の方々は作業の様子を語ってくれました。お話をうかがったのは、すでに二十五日の午後で一段落している状態で、みなさん一応事務所に戻られたところでした。窓の外の錦川がまだあふれているのを見ながら、汚れた作業服のままでお話をお聞きしました。



岩国では大きな被害に見まわられた

台風18号襲来

のです。心からご苦労様と言いたくなります。

その他にも、台風十八号は山口県に大きな被害を残していきました。広範囲で長期に及ぶ停電、瀬戸内海沿岸を襲った高潮、特に下関市、山陽町、宇部市、防府市、光市などはその被害は大きいものでした。山口宇部空港では滑走路、ターミナルビルが水に浸かりました。駐車場の数十台の車も全て屋根近くまで水に浸かったようです。

しかし、道路管理維持作業はこの後もまだまだやることがあります。「道路の清掃、残骸回収などの後処理がすべて終わるまで、仕事は終わったとは言えません。」という一言を残して、作業員の方々は作業に戻られました。

下関支部

一方、九月三十日、下関支部では台風で被害にあった廃棄物処理作業が行われました。

台風十八号は下関市も床上浸水による被害は大きく、市では使えなくなった家具などのゴミ回収を呼びかけました。市内各所に設けられた廃棄場所のひとつが、ここ下関信用金庫長府支店前に設けられました。

集まった廃棄物はまるで小山のようにうず高く積まれています。この小山を吉母にある下関環境センター、埋没場へ運ぶのが今回の下関土木協会が行うボランティア作業です。

この山はゴミの山

ゴミは見る間に片づけられる

ことの始まりは前日にこの小山を見た協会が、市に手伝いを申し出たところ、それならお願いしますということで作業することになりました。下関支部の沼倫男事務局長のお話では「急な事だったので会員に連絡するのが大変だったが、どうにか三社に同意してもらいました。」とのこと。十トンダンプトラック六台、ショベルカー一台、人員二十名が、午前八時に作業を始めました。現場で指示されていた、市役所環境衛生課・亀田敏範課長は「ゴミ出しの期日は二十八日で締め切ったのだが、今日もまだ出しに来られる方がいる…。場合が場合だけに。それだけ被害が大きかったということですね。」と苦笑い。

さて、始まった作業は大仕事でした。大型冷蔵庫、イス、テーブル、テレビなどなど。中でも濡れた畳の量の多さが目を引きました。重く、持ち上げるとバラバラになり、かなり面倒な様でした。その他の廃棄物も、トラックに積み込むのにショベルカーも歯が立たず、結局は人海戦術となりました。立ち上る粉じんの中で作業は進められました。結局、ここ長府でも六台のトラックがそれぞれ五往復してもなお、一日では運びきれませんでした。そこで残り一車分は翌朝運ばれました。市内の他の場所でも一日がかりの作業を終了したとのことでした。